



# 山形県感染症発生動向調査

平成28年第18週(5月2日～5月8日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)  
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486  
 URL http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/  
 2016年5月10日 発行

## <定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※     :警報レベル

    :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第17週	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	
<b>インフルエンザ定点</b> (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	12362 2.51	285 5.94	131 2.73	▼	133 6.65	55 2.75	▼	26 5.20	12 2.40	▼	67 6.70	37 3.70	▼	59 4.54	27 2.08	▼	13738
<b>小児科定点</b> (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	487 0.15	1 0.03	1 0.03		1 0.08	1 0.08	△				1 0.17		▽				41
咽頭結膜熱	1265 0.4	16 0.53	13 0.43	▽	10 0.77	8 0.62	▽				6 1.00	4 0.67	▽		1 0.13	△	222
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	7574 2.41	137 4.57	86 2.87	▼	85 6.54	52 4.00	▼	1 0.33	3 1.00	△	32 5.33	20 3.33	▼	19 2.38	11 1.38	▼	3359
感染性胃腸炎	18803 5.98	164 5.47	120 4.00	▼	48 3.69	42 3.23	▼	1 0.33	2 0.67	△	80 13.33	42 7.00	▽	35 4.38	34 4.25	▼	4202
水痘	1121 0.36	6 0.20	3 0.10	▽	3 0.23	2 0.15	▽				1 0.17		▽	2 0.25	1 0.13	▽	217
手足口病	176 0.06	2 0.07		▽	1 0.08		▽	1 0.33		▽							13
伝染性紅斑	1069 0.34	27 0.90	22 0.73	▼	7 0.54	5 0.38	▼	1 0.33	1 0.33		5 0.83	1 0.17	▽	14 1.75	15 1.88	△	1067
突発性発しん	1738 0.55	17 0.57	21 0.70	△	4 0.31	7 0.54	△	1 0.33	2 0.67	▲	9 1.50	8 1.33	▼	3 0.38	4 0.50	△	335
百日咳	55 0.02	1 0.03		▼							1 0.17		▽				7
ヘルパンギーナ	167 0.05	1 0.03		▽										1 0.13		▽	1
流行性耳下腺炎	2516 0.8	92 3.07	52 1.73	▽	6 0.46	1 0.08	▽	5 1.67	4 1.33	▼	70 11.67	38 6.33	▽	11 1.38	9 1.13	▽	1120
<b>眼科定点</b> (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	13 0.02																
流行性角結膜炎	471 0.68		2 0.25	△				2 2.00		△							15
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	290 0.61		1 0.10	△		1 0.25	△										7
クラミジア肺炎	5 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	224 0.47	4 0.40		▽	3 0.75		▽							1 0.33		▽	41
細菌性髄膜炎	8 0.02																1
無菌性髄膜炎	14 0.03																4

## <全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
侵襲性肺炎球菌感染症	患者	1				肺炎球菌ワクチン接種歴無し。
					1	※第17週追加報告分。肺炎球菌ワクチン接種歴無し。

## <通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ		2	2	6	10	3	7	13	8	7	9	30	9	1	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	8	5	5	3	2	1									131
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症			1												1
咽頭結膜熱		3	7	2		1									13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	5	9	16	12	13	10	4	2	10	1	2	86
感染性胃腸炎	3	19	25	15	9	10	10	9	6	3	5	5		1	120
水痘				1					1	1					3
手足口病															
伝染性紅斑		1	1	1	3	2	2	3	3	2	2	2			22
突発性発しん	1	10	9	1											21
百日咳															
ヘルパンギーナ															
流行性耳下腺炎			2	5	6	9	9	7	5	4	2	1	1	1	52

<平成28年3月 月報>

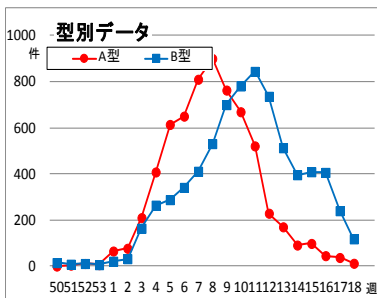
2016年4月19日 更新

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～3月	
	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月		
<b>STD定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	20	18	4	4	11	14	3		2		55
	定点当り	2.00	1.80	1.00	1.00	11.00	14.00	1.50		0.67		
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	2	6		3		2	2	1			12
	定点当り	0.20	0.60		0.75		2.00	1.00	0.50			
尖圭コンジローマ	報告数	2	7		2	1		1	2		3	11
	定点当り	0.20	0.70		0.50	1.00		0.50	1.00		1.00	
淋菌感染症	報告数	1	2	1	1						1	4
	定点当り	0.10	0.20	0.25	0.25						0.33	
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	4	5	1	1	1	1			2	3	18
	定点当り	0.40	0.50	0.25	0.25	1.00	1.00			0.67	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	14	27	9	6	1	1	1	3	3	17	62
	定点当り	1.40	2.70	2.25	1.50	1.00	1.00	0.50	1.50	1.00	5.67	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

【インフルエンザ情報】

1 迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数 (第18週)



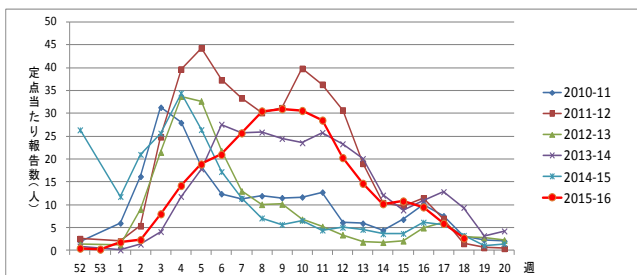
	A型	B型
村山	4	50
最上	5	7
置賜	1	36
庄内	2	25
合計	12	118

※型別不明: 1件

2 集団発生状況 (県健康福祉企画課まとめ 第18週)

村山地区: 1施設(中学校1)

3 定点あたり報告数の推移(過去5シーズンとの比較)



【流行性耳下腺炎】

流行性耳下腺炎の定点あたり報告数は、置賜地区で第10週から継続して警報レベルとなっております。

・流行性耳下腺炎

警報開始基準値: 6人 警報終息基準値: 2人

注意報基準値: 3人

・第18週定点あたり報告数 (県平均: 1.73人)

村山: 0.1人 最上: 1.3人 置賜: 6.3人 庄内: 1.1人

流行性耳下腺炎とは

片側あるいは両側の唾液腺(あご周辺)の腫れを特徴とするウイルス感染で、ムンプスやおたふくかぜとも呼ばれています。

【症状】

基本的には軽症で済みます。2～3週間の潜伏期(平均18日前後)を経て、唾液腺の腫脹・圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症し、通常1～2週間で軽快します。まれに髄膜炎、髄膜脳炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴などの合併症を認める場合があります。

【予防法】

流行性耳下腺炎は接触あるいは飛沫感染で伝播しますが、その感染力はかなり強いです。また、感染しても症状が現れない不顕性感染もかなりみられます。効果的に予防するにはワクチンが唯一の方法であり、接種者の罹患率は1～3%であったとの報告があります。

※参考URL: IDWR 感染症の話 流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)

[http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kansen/k03/k03\\_35.html](http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kansen/k03/k03_35.html)